

伊澤昌弘

「シニアの会」発足以来席を置けていますが、研修会やイベントに参加できていない不良会員の伊澤と申します。小野寺会長をはじめ役員の皆さんの温情で何とか仲間に入れて頂けてます。

私は県職員として県内各地の「保健所」に席を置き、環境衛生・公害担当として歩んできましたが、道半ばで横道に足を踏み入れました。

お陰様で、地方公務員としての人とのつながりよりも数メートル？幅が広がり、多くの方とお付き合いをすることが出来たと思っています。

今年6月の初めに福島県を訪れ大熊町まで行く機会がありました。

2011年3月の東日本大震災による津波が原因で、東京電力福島第一原子力発電所から放出された放射能物質で汚染された「汚染土壌」を保管し、放射能の低減後に再利用をするために整備した施設（国の施設ではなく、民間施設とのこと）を見学してきました。

施設に入るためには、顔写真入りの「身分証明書」（免許証等）を携帯することが必要で、名簿と証明書を照らし合わせて許可されるシステムとなっていました。

汚染土壌を埋設した場所は正常な土で覆土され、私たちには「空気線量測定器」を渡され、各自が線量を測定しながら保管場所を散策してきました。

線量計の値は、 $0.3\mu\text{Sv/h}$ 程度（盛岡市内の線量は現在では $0.03\mu\text{Sv/h}$ ）であり、担当者の説明によると埋まっている汚染土壌からの放射線よりも付近の木々からの放射線を検出するほうが高いとのことでした。

15年を経た今も、福島県内には帰還困難区域が存在し、放射能を含む物質で汚染されている状況ですが、この施設では福島県内で発生した汚染土を保管し、一定程度放射能が低減した後に、各地の道路建設等の基盤材として再利用するために管理している実態に触れることができました。

目に見えない放射能物質の影響を完全に遮断することは、難しいものと考えて来ましたが、事故の起きた原子力発電所を直接見ることのできる場所を訪れ、改めて「原発事故」がもたらす影響の大きさを感じてきました。



奥に見えているのが、福島第一原発手前の平らなところにも汚染土が保管されている